

# こくぶんじ 市民活動センターだより

発行 こくぶんじ市民活動センター

interview

NPOサポートセンター理事長 山岸秀雄

そもそもNPOってなんだろう？ この問いに「NPOサポートセンター」  
山岸理事長がお答えします。山岸理事長の「ミッション」とは

山岸さんは、どういう経緯でNPOサポートセンターを設立されたのですか？

企業に就職した後、銀座で出版社を起こしました。今から13年前には第一総合研究所をつくる政策過程に関わり、93年にシンクタンクを設立すると同時に、NPOサポートセンターを設立しました。88年にアメリカを訪問し、NPO制度について学んだことがきっかけです。

当時、日本の市民活動は、組織も弱く資金力もなく、社会からも認知されにくいものでした。活動スタイルも批判型であったり、要求獲得型であったりしました。しかしNPOになれば、継続できる活動として進歩し、行政や企業と対等になり、自立して政策提言を行ない、責任を持ち勉強もしなくてはなりません。それを支援するため日本最初の間支援組織としてサポートセンターを設立しました。

NPOと行政が組めば新しい公共が生まれてきますね？

日本のNPOはまだ移行期であり、自立が非常に難しい状態ですが、NPOと社会的に対等な関係で進まなくてはいけないということ、一番理解すべきなのは自治体職員です。しかしこれできていない。明治大学と共同で自治体向けに行なったアンケート調査でも、NPOとの協働がうまくいかない原因は「自治体の遅れである」と自分たちで答えています。

自治体の改革で、職員数も2分の1ほどになってくるでしょう。同時に指定管理者制度でかなり乱暴に民間委託されてくる。NPOとしてはぜひ委託を受けたいと思いますが、内容や価格、やり方の問題にまだ自治体に対応しきれていないため、なかなか引き受けるNPOが出てこない。地域における行政サービスが相当に低下することを行政だけで考えずに、NPO(市民)側の考えも入れながら話し合い、合意形成を図って大胆な施策に踏み切るべきだと思います。

例えば、福祉は行政にしか出来ないわけではなく、アメリカでは入り口の事務的なことは行政が行い、あとは全部NPOが行っています。NPOと行政が一緒になって新しい公共とは何か、コミュニティとは何かに取り組めばもっと公共マーケットが広がります。

中間支援組織としての具体的な事業内容はどんなことですか？

我々のNPOサポートセンターでは、「人材育成事業」と「政策提言活動」を中心にしています。それをサポートする情報交流の場としてNPORT(エヌポート)というホームページ(<http://www.nport.org>)を作りました。これは第一総合研究所が経済産業省に応募して1億円の開発費用を獲得し、慶応義塾大学と組んで開発したものです。地図上でNPOの求人・イベント・活動内容などに関する情報が検索できます。情報交換によるNPO間のネットワークや社会とのパートナーシップを目指しています。

中間支援組織は、市民の社会参加を促すこと、思いをビジネス化する市民事業を支援することをしなければなりません。日本の中小企業でも約8割は失敗しています。なぜかというところそういうシステムになっていないからです。中小企業やNPOが事業を起こすことは大変です。うちでは「ワンストップサービス」という相談事業をしています。研修や資源の情報提供、融資や補助金などのコンサルティングですね。

成功しているNPOは、どんな組織で人材的な特徴はどんなことですか？

7月28日銀座にて

NPOの生命線は政策提言型でいくことです。大変なことです、それを行政がどの程度受けとめるかによって、NPOの伸びが変わってきます。NPOがわずかしかかないような地域、行政がキャッチボールにも付き合わないところはNPOが進歩しません。お金がない、どうしようと言い合って、理解を深め合って作っていくのが地域づくりです。

そういう時期にNPOは批判ばかりしていても仕方ないし、産官学民によるプラットフォーム(基盤)をつくるには、NPOと大学が中心になるようなプロジェクトを提起・実現しています。(2ページ目につづく)



まさに人材育成の場ですからね。大学は表向き新しく見えるけれど、実践力が不足なのは否めない。しかし社会現象として4年制大学も2~3割は数年で倒産していく。やっと危機感が出て来た訳です。行政も大学がつぶれては困るし、街の商店街もそうだと思います。大学を盛り立て、人材育成の場からNPOと組んで事業を一緒にやり、NPOが組織とか地域で力があるということを示して見せていく。大学は信用を持っているので、一緒に組むと信用を獲得できます。その代わりに大学からインターンシップを引き受けたりします。

国分寺市も学生と共に地域活性化をすすめようとしています。20~30代にもNPOを広げるためのアドバイスをお願いします。

40代前半以前の若い世代は僕らと少し感覚が違うんですね。社会のために、地域のために何かを変えていこうと一生懸命にやるといふ部分が、どうも欠けている人が多いですね。リーダー養成でも「なんでそこまで一生懸命に社会のことを言うんですか?」という人が多いですよ。NPOは社会の課題を解決するために、社会システムを変革するという社会的役割を認識すべきです。NPOも最初から行政の下請けになってしまうことが多くなっています。社会のシステムを変え、行政と企業とNPOが対等で検討すべきです。そこをちゃんと理解したリーダーを本当はたくさん育てたいと思います。いろいろな形で実験していますが、なかなか生まれてこない。やはり人材ですべて決まりますね。ですからNPOセクターの大学・大学院づくりの計画を進めているところです。

NPOは今後どうなるとお考えですか?

私はNPO法人の数が短い期間にこんなに増えるとは思っていませんでした。ただ中身の問題があります。予測以上に市民は犠牲を負っても社会を良くしていこうと思っている。こんなにある豊富な力を社会全体で活用していくべきです。NPOでないといけない問題、協働でないといけない問題、行政が今までできなかった問題があります。社会がNPOの出番をつくり、NPOは、お金ばかりではなく社会的な投資をしていく。NPOの歴史的な価値や役割をちゃんと認識しないと日本の社会を危うくします。

もう一度、公共性やコミュニティを考えて、新しい仕組みやNPOの場を早急に大きくつくっていかないとなりません。それ以外に地域のサービスを守ったり拡大することはできない訳です。NPOがやった方が、機能的にも財政的にも明らかに効果が出ています。もうそういう時期になっているということですね。

貴重なご意見をありがとうございました。

なお、NPOサポートセンターの施策の詳細についてはHPをご覧ください。

<http://www.npo-sc.org>

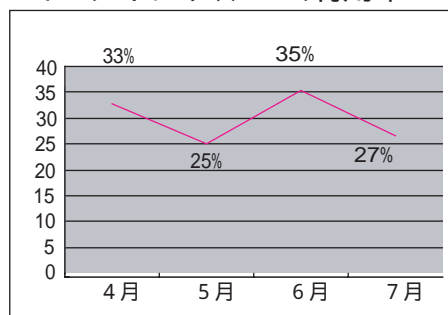
センターの  
中間報告  
(H17.4~7)



複写機・印刷機利用

複写機利用	枚数	印刷機利用	枚数
4月	78	4月	2,854
5月	36	5月	2,605
6月	216	6月	8,661
7月	135	7月	7,390

ミーティングルーム利用率



市民活動Q & A スタッフの日記より

Q. NPO補助金はありますか?

A. 文化コミュニティ課では以下の制度を設けています。  
市民活動推進事業補助金...市民活動団体が行う先進的・公共的な新規事業の立ち上げに一定の補助をしています。

【申請期間】9月1日(木)~9月30日(金)

市民活動団体活動支援・事業支援貸付利子補給制度...金融機関から活動及び事業の支援のための融資を受けた市民活動団体に対して利子補給金を交付いたします。

【申請期間】平成18年1月4日(水)~2月28日(火)  
募集要項は市民活動センターおよび文化コミュニティ課でお配りしています。市民活動センターホームページでもダウンロードできます。

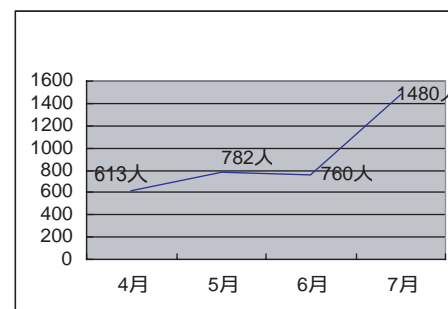
については市報9月1日号、については7月1日号に詳細を掲載しています。

Q. ボランティアをやりたい!

A. 登録団体と活動分野の一覧表、センターのパンフレット等を渡しています。

また留学生が外国語(母国語)を使ってボランティアをしたいとの要望があったので、活動分野の中からピックアップしてその団体の連絡先を教えました。

HPのアクセス件数



それまで月平均約700人でしたが、7月はなんと2倍に増えています。これは機関紙が創刊され、また口コミが多かったためと思われる。(^^)



「健康体操指導ワーカーズ」は、高齢者等の健康維持に必要な「自立生活体操」を指導・普及する活動等を23名で行っています。代表の小川葉子さんは約10年前、介護保険の助け合いの仕組み作りにかかわる中で介護予防の大切さを実感し、スウェーデンで行われている年金受給者体操を基本に、一人一人の自立度に合わせて行えるようこの体操を考案されました。現在、国分寺市内では、自立生活体操クラブ12カ所、健康体操クラブ1カ所、市の委託事業として国分寺市高齢者いきがい創作活動事業を本多で展開し体操指導を行っています。



小川さんの指導で楽しく体操

今回は「自立生活体操クラブ・いずみ」をいきいきセンター（泉町）にて取材しました。8月初旬の暑い日にもかかわらず、20余名の方々が会場に集まり、和気あいあいとした雰囲気の中で、体操が始まりました。小川さんと一緒に軽快な音楽に合わせて、みなさん楽しそうに体を動かしていました。

「この体操を続けることで高齢者の方々が見違えるように元気になれる。単に体操指導で健康増進に寄与するだけでなく、高齢者を含め誰もが社会の中で自立して生きていくきっかけを作りたい」と言う小川さんの言葉どおり、自立生活体操クラブの運営は会員の方たちによって自主的に行われています。健康体操指導ワーカーズでは、指導者育成にも力を入れ、公認指導員50名が誕生し、自主グループの会員の中からアシスタントになる方もいます。このように「体操を教えてもらう」立場から「自ら活動を支える」力を市民から引き出すことも大切にしています。さらに、国分寺だけでなく都内練馬区・大田区をはじめ、千葉や長野などにも支部を設立し、要介護や寝たきりの方を対象にした体操や幼児向けの親子体操への広がりもみせています。練馬区からは「転倒予防委託事業」をプロポーザル方式で受託した他、要介護者へのリハビリを兼ねた体操の開発などの事業にも取り組み、着々と行政との協働事業を進めています。

当センターに期待することは？との問いに小川さんは、「市民が望んでいることについて皆で話し合うことができ、その実現に向けて具体的に行動できる場であってほしい。センターが、市民の願いを市も関わりながら形にする拠点となり、市民一人一人が『国分寺に住んで良かった』と思えるようになるといいですね。」と熱く語ってくださいました。

連絡先電話番号：042-329-1227 Email：taisou.w@jcom.home.jp

## 開設1周年記念フォーラムを開催します

市民活動および協働の拠点としてオープンした『こくぶんじ市民活動センター』は、10月22日に開設1周年を迎えます。これを記念して、「第2回コラボレーションフォーラムこくぶんじ」を開催します。

今年1月の第1回フォーラムでは、NPOと行政の協働の必要性とその方策について学び合いました。今回のフォーラムでは、市民と行政がいかに情報を共有し、透明性の高い協働のしくみを作り出してしていくのか、その先進的な取り組みをパネルディスカッションにより提起します。さらに参加者とパネリストの意見交換により、協働をより高いレベルで具現化する手法を見出していきたいと思えます。詳細については、市報10月1日号やチラシ等でお知らせいたします。皆様ふるってご参加ください。

【日時】 平成17年10月22日（土） 開場13：30 開演14：00

【場所】 国分寺市立国分寺Lホール（国分寺駅ビル8F）

【主なプログラム】 パネルディスカッション「協働を進めるための仕組みづくり」

【出演予定者】 牛山久仁彦さん（明治大学政治経済学部助教授）

手塚明美さん（藤沢市市民活動推進センター所長）

徳嵩淳一さん（杉並区区民生活部地域人材・NPO担当課長）

藤木千草さん（市民活動センター運営の会理事）

内藤達也（国分寺市市民生活部文化コミュニティ課長）



# 市民の広場

講習会・イベントなどの感想あるいは当センターに対する質問などみなさん市民が投稿する場です。

## 地域の特性をどう活かすかが決め手

さる7月9日午後、多摩地域で活動するアンティ多摩ほか、多摩地域の市民団体が共催した「市民活動支援ってな～に？」（於国分寺労政会館）に参加しました。発表された3市の状況を簡単にご報告します。

### 八王子

2001年2月に八王子NPO協議会設立準備会がスタート、02年11月に八王子市民活動センター設立、03年6月には市民活動センターの管理運営を八王子市民活動協議会が受託。協議会活動はいろいろあるが、NPOマネジメント講座などに加えて、退職後の男性を対象とする「お父さんお帰りなさいパーティー」が人気を博している。

### 日野

03年4月に連絡会発足、現在の加盟団体は29団体。メールマガジンの発行、市民活動相談窓口開設、NPOフォーラム開催やニュースレターの発行などのほか、子どもパソコン教室、ひの史跡・歴史データ公開、PCお助け隊や緊急連絡機能付き「ひのっ子ネット」を試験運用中。

### 三鷹

「みたか市民プラン21会議」から生まれた市民協働センターは、市民活動の拠点をめざし、市民協働推進コーナーの活用、テクニカルな講座などを行っている。

それぞれの報告は大変参考になりました。手法は様々ですが、地域の特性をどう活かすかが決め手です。運営の会としても先進市に学びながら推し進めるべきだと思いました。

尚、当日配布された「多摩地域における市民活動・NPO支援センター調査」一覧表が当センターにありますのでご活用下さい。

市民活動センター運営の会理事 富田潔

## 団体紹介コーナー

団体紹介  
大募集！！

### Ann Bee (アン・ビー)

現在たくさんの方が暮らしやすい街を願っています。私達も障害のあるなしに関わらずこの地域で、声を掛け合いながらお互いの持っている力を学びあい、住みやすい街になるため一端を担いたいとAnn Beeを立ち上げました。

来年4月から知的障害者の作業所を開所するとともに、人と人との輪を広げ、より豊かなコミュニケーション作りができるように、生涯学習・異世代交流を行いたいと現在準備中です。

多くの方々に様々なことを教えていただきながら、共生、協働へと目指していきます。

気持ちだけは誰にも負けないつもりですがまだまだ微力な私達です。どうぞよろしくお願いいいたします。

連絡先電話番号：042-406-0585

● だよりのタイトルまだ募集中です  
応募締切：11月15日(火)

● 国分寺まつりに出展します  
11月6日(日)都立武蔵国分寺公園(泉町)にて当センター出張窓口を出展します。  
(9:30～15:30)  
相談や申込などは是非お気軽にお越しください。



### 編集後記

「健康体操指導ワーカーズ」の取材で、市民の方が生き生きと楽しそうに交流しながら体操をする姿に触れることができました。自分自身の運動不足を反省すると同時に、こころと身体の「自立」は、人と人とのつながりの中ではなくまれていくのだと感じました。こくぶんじ市民活動センターもさまざまな形の「つながり」を作り、育てていく場になればと思います。(は)

発行 こくぶんじ市民活動センター(市民生活部文化コミュニティ課)  
編集 こくぶんじ市民活動センター/市民活動センター運営の会  
〒185-8501 東京都国分寺市戸倉 1-6-1  
TEL 042-325-0111・内線228 / FAX 042-325-0140  
e-mail kccpc@tiara.ocn.ne.jp  
http://www.collabo-kokubunji.com  
開館時間 9:00～17:00 年中無休(ただし年末年始を除く)  
平成17年9月1日発行

